

イザナギ・イザナミの命（1）

阿井の地には、上阿井に伊弉册（イザナミ）の地名があり、イザナミの神が、「ミコトさん」と呼ばれて祀られている。更にさぐれば、イザナギ・イザナミの二神を祀る神社やこの二神にまつわる神話伝説の地が数多くある。

さて、この二神名の表記は、古事記・日本書記・出雲国風土記・その他諸本等のそれぞれには統一されているものの漢字表記が異なっている。以後二神名は「カタカナ」で表記する。

前記伊弉册の「ミコトさん」の他に、鯛ノ巢山の中腹には「籠り岩」と称する岩窟があり、イザナミの命がご難産のため、七日七夜この岩にこもられたと伝えられている。さらに、内尾谷奥の花の谷をのぼって行くと猿政山の中腹に大きな岩窟（岩穴）があつて地元の人達はこれを、「穴観音」と呼び、黄泉（よもつ）平坂の千引岩だと伝えている。更に八〇〇メートル位登

ったところに屏風岩と呼ばれる柱状節理が広がり、その上下がイザナミの命・スサノオの命の御陵（お墓）と呼ばれている。又、記録としてイザナギ・イザナミの二神が川子原を出発して奥湯谷↓鯛ノ巢山↓小馬木↓大馬木↓吉田の杉戸↓呑谷奥にいたる巡行記録もあり、その他点々と二神の神話伝説がある。



次にこの二神の祀られている神社を見ると、内谷の鎮守神社にイザナミの命。上阿井大原神社の境内社の貞宗神社にイザナミの命。下阿井の阿位八幡宮の境内社の伊勢神社に二神とも、高野町の熊野権現神社に二神共に……。

以上の事に加えて、広島県民の森の西山の比婆山に、イザナミの命の神陵（お墓）伝説があることを合わせ考えると、猿政山を中心とする一帯にイザナギ・イザナミの神の存在があつたということが出来る。

出雲国風土記（七三三）の仁多郡の条には、「御坂山（猿政山）即ち此の山に神の御門有り。故、御坂と言う。備後と出雲の堺なり。」と記されている。この山に神の御門ありと称されるは、この山が「山」（かみやま）と言われたであろうと想像される（加藤氏）。また「出雲風土記抄」によれば、神の御門は、すなわちイザナミの命の御門（しんもん）の意であるとし、門脇氏は、「御門は神門の事で神国領に入る入り口である。したがって神山の御坂山に登る鳥居であり、新市の上市より毛無川にそって比市山（毛無山）の麓を通り、（ここに比市割『関所』）がある。そして呑谷に入る。いわゆる神国出雲に入る鳥居とも解される。」と。

この事からして、御坂山（猿政山）には古代より神山として数々の神話伝承・伝説が残り、国生み（土地・生物・総ての守り神・火など）の神としてのイザナギ・イザナミの神の山として、この地域（高野山も含む）の人々の心のよりどころであり、この二神とともに生きた事がうかがえる。

